

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎364-8442

## 地道にこつこつ

最近はそのほどでもありませんが、一時『モーレツ』という言葉が流行し、『モーレツビジネスマン』、新人社員の特訓』など、ビジネスマンに厳しさを強調する図書やテレビ番組が氾濫した時期がありました。さらに加えて『能力主義』とか『実力主義』などが大きく叫ばれ、対象になったビジネスマンは一時は気もそぞろでした。

しかし『ビジネスマン』とは陸上競技でいえば、短距離走者ではなく長距離走者ではないでしょうか。入社早々から猛烈に馬力をかけたなら、またたく間にへばってしまおうでしょう。

私はこれといって優れた才能もなく、ただ一介の人間としてこれまで生きてきました。波乱万丈といった生活の変化もなく、これといったエピソードもなく、言えることといえば、その時々の時々々として自分の仕事を一生懸命やってきましたということ。

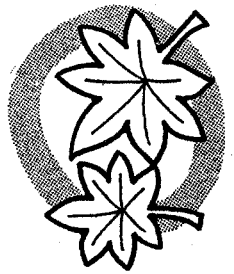
企業が『モーレツ』を要求し社員にハッパをかけるのも良いのですが、それが『働くことが人間の本分』であり、『働くことの尊さ』を理解させての上でなければ、考え直すべきではないでしょうか。企業に必要な人、それは仕事を生活の手段としてだけではなく、そのなかに生きがいと喜びを見出して働く人なのです。

企業の目的が金をつくるだけならば、そこに働く人がいくら『モーレツ社員』であったとしても、その企業はいつか崩れ去っていくことでしょう。地道に、たゆまず、こつこつと努力をしていく人こそ、長くその会社の繁栄に役立つていくのです。

大代東区 本郷 新治

ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にお返し物ほしなないようにお互い気を配りましょう

あいさつは心のふれあい あいさつしましょう出会った人と あいさつしましょう



## シベリア慰霊訪問3

八月十一日土曜日、快晴、気温朝二十度。シベリア墓参の旅も三日目を迎えた。今日も暑くなりそうだ。此処の夏も数十年振りの暑さとか、連日三十度を超えている。昨夜は、夜十一時と云うのにまだうす明るく、十二時過ぎにやっと暗くなった。と思いきや午前

三時過ぎには夜明けの気配、そんな空にいろんな形の雲が低く流れ旅情をかきたてる。

寝苦しかった夜だが五時三十分の起床。朝食をとり、九時からの合同慰霊祭へとバスでハバロフスク郊外の会場に急ぐ。一時間程で到着。正面入口にでっかい塔が建っていた。

《ハバロフスク地区日本人死没者の標》と刻んだ立派な石塔である。すぐそばを八メートル程の参道が一キロほど真っ直ぐと続く。両サイドの植栽が整然としてきれいだ。勿論諸車乗入れ厳禁、一行七名も汗を気にしながら急ぐ。遙か遠く眼に映る稜線は、大自然の中で悠然と構え、誰にはばかる事なく雄大な姿を見せてくれる。野草は、野花は、大地の重い土を押しあげ、力強く顔を出している。野鳥は晴れた大空を自由に飛び交う、全くのどかな自然である。ラーグリー（収容所）生活当時もこんな素晴らしい大気、自然があったらうか。

いや全く暑い。給水しながらやっと式場にたどり着く。十数段の階段の奥に奇形のドームが建ち、多くの花輪が供されていた。祭壇両側には主催者の方々、後援の領事官、ハバロフスク州知事そしてロシア軍の吹奏楽隊、派手な民族衣装で飾った娘たち、およそ七八十名とかなかなかにぎやかである。

正面には遺族、一般参会者（前抑留者など）又、熊本から来たらしい和尚さん九名などなど、催行者側が一般参列者を上廻る数に淋しさと何か不自然さを感じた想いでした。ロシアの新聞記者や女の子の進行で開式、読経に始まり順次献花、焼香と進む。

半世紀も過ぎた今日、この現地で二の眼、二の足で大地に立ちあの当時は、偲び想いをたどれば、空腹と寒さに耐える、只故郷に帰る日を夢見ながら、看取る人もなく悲しく逝った友、同胞が次々と暗い冷たい土の中に淋しく埋められていった現実が浮かんでくる。いま改めて「友よ、安らかに眠れ」と合掌するだけでした。遠い昔のこんな惨状も、昔の語り草として風化してしま

うのかと思うと、悲しくてなりません。この時、地域の娘さん達から冷たい水の接待あり、ありがとうと一気飲み、突然軍楽隊のメロディ、派手な衣装の娘たちとの共演となりました。それはロシア民謡の定番であり、この式を盛り上げてくれたのでした。代わって「異国の丘」「ふるさと」望郷の歌詞に皆さん総立ち、静かな合唱となるが、みんなの顔がくしゃくしゃ、不覚にも私も共に涙を流してしまいました。木々の緑をわたる、さわやかな夏の微風が私共を穏やかに包んでくれてい

ます。今日ここに死没者の慰霊祭をやったって頂いた関係者に感謝すると共に、犠牲者の御霊に安らかならん事を祈りながら後にしたのです。

次回は私のテイルマ地区の抑留生活について書いてみたい。

大代南区 後藤清一

## コミュニティ

### 「グラウンドゴルフ大会」

#### 参加者募集

小学生・中学生・高校生等大歓迎

○日程 十一月二十四日（土）  
（雨天中止）

午前九時三十分（集合）  
午前十時（開始）

○場所 緩衝緑地公園  
（東側・あずま屋付近）

○申込み 大代地区公民館に直接  
十一月十五日締切ります

（☎三六四一八四四二）

○主催 大代地区コミュニティ  
推進協議会（体育部）

○後援 大代グラウンドゴルフ愛好会

※体育部では、来年二月に「ボウリング大会」も予定しております。詳細は、ふれあい二月号でお知らせいたします。



大代グラウンドゴルフ愛好会だより

大代グラウンドゴルフ愛好会は今年で創立十周年を迎え、十月八日に会員五十名参加のもと記念大会が開催されました。

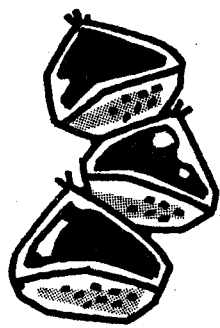
午前の大会に引き続き、午後は小野屋ホテルにおいて大会入賞者及び創立以来愛好会の運営、発展に寄与された功労者、功績者の表彰式が行われました。続いて祝賀会に入り、十年の歩みなど語り合いながら会員同士の親睦が計られ、有意義な会となりました。これからもゴルフを通して健康づくりと会員皆さんのふれあいを大切にしたい会の運営をしていきたいと思えます。今後ともよろしく願います。

なお本大会に大代郵便局より多分のご芳志をいただきました。御礼申し上げます。

表彰者は次のとおりです。

- 功労賞 内ヶ崎 勝 夫 氏
- 功績賞 鈴木 アサ子 氏
- 〃 西山 哲 氏
- 〃 佐藤 秀一 氏
- 〃 鈴木 国義 氏
- 優 勝 渡 辺 清 氏
- 準優勝 渡 辺 正 志 氏
- 第三位 加藤 清 明 氏

大代グラウンドゴルフ愛好会  
創立十周年記念大会実行委員会



第八回大代地区スポーツ大会結果

去る十月七日(日)、秋晴れの下約二百五十名の方々に参加いただき、無事大会を終了することができました。参加された皆さんはもちろん、準備にあたっていただいた役員の皆さん、ご協力ありがとうございました。なお、大会結果は次のとおりです。

- 優 勝 大代南区  
大代中区  
(同点のため二地区)
- 第三位 大代東区

大代地区子ども会育成連合会

会長 櫻井啓一郎

消火器及び消火液

交換幹旋のお知らせ

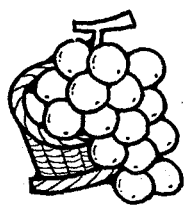
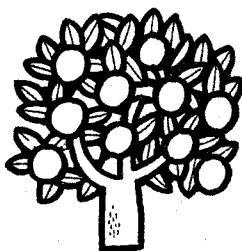
日溜まりの恋しい季節となつて参りました。当クラブの行事も地域の皆様のご協力のもと種々進めることが出来ました。これも区長さんはじめ皆様方のご理解があつたことと役員一同心より感謝申し上げます。

さて、かねてよりの懸案でありました消火器、消火液交換の幹旋を左記のとおり行います。詳細は各地区回覧でお知らせしますので、宜しく願います。

記

日時 平成十三年十二月二日(日)  
午前十時より十一時まで  
場所 消防ポンプ置場前  
価格・新品 五、七〇〇  
〃 八、八〇〇円

液詰替 三、〇八〇  
〃 四、四〇〇円  
・引取 有料  
大代地区婦人防火クラブ  
会長 後藤重子



俳句

- ☆ 海の辺の 無人の駅の つり風鈴
- ☆ 芒野の 深きあたりの 人の声
- ☆ 郭公が 鳴けば故郷 近くなる

大代西区 松浦富男

大人たちのための童心物語

月夜のメルヘン「4」

若生一徳(大代西)

「お母さんだわ、きつと。だって私のお母さんですもの。まだ四日しか経ってないのに、一ヶ月もあつていないみたい。お月さまからのすばらしいプレゼント、ああうれしい」

めぐみはよろこび勇んで、はしごを伝わって行きました。その軽やかな足取り、すべてに興味を失っていたこれまでとは、別人の変わりようです。

めぐみの身の動きにつれて、ネグリジェの二つのボタンが、星星と同じようにきらめきました。

「夢をみているのかしら？」

めぐみはふと自分をかえりみしました。そのときいかにも神秘的な光が、さつとめぐみの足もとを照らしだしました。あたりいちめんぶんわり乳白色の雲が濃く漂っていて、下界をさえぎっています。「体がすくんで動けなくなるところを、お月さまが救って下さっているのね」と、めぐみはその雲のたたずまいを、お月さまのこまやかな心くばりと受けとり、夢ではないと信じたのです。

月までもう間近でありました。

めぐみが辿りついたところは、月のうちで最も高い山の頂きのほりでした。はしごの先端は、クリスマス夜の母が飾ってくれたときと同じモミの木につけ根に、しっかと結えつけられてありました。

(続く)